令和5年度　大館市立田代中学校　学校評価書（　前期　・　年度）

A　学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来を幸せに生き抜く生徒の育成　～共生　凡事徹底　挑戦～

B　生徒会テーマ

Happiness　Charge　～112人の幸せのカタチ～

C　本年度の重点目標

1　未来大館市民の育成のために全教育活動を通して人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力及び自己有用感・自尊感情を育てる。
2　地域社会と関わる学習を通して、ふるさとへの誇りや志をもって自らの生き方について考えることができる生徒を育む。
3　地域貢献活動や地域との協働活動等を通して学校と地域の協働体制を構築し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

D　本年度の経営方針

基本姿勢　「目的」と「手段」を明確にした教育活動の展開

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

1　JAKSを基盤とした人間的基礎力　よりよく生きるための基本的な生活習慣、人間性や社会性を身に付ける
2　主体的実践力　自ら課題を見つけ、考え、判断し、よりよく行動する
3　共感的協働力　相手を尊重する　仲間と力を合わせて考え、創造する
4　自己有用感・自尊感情　互いに認め合う、自分のよさや可能性を知る、周りに貢献する

未来につながる確かな学力の育成

資質・能力を身に付けるために「見方・考え方」を働かせて学びを深める授業
～教科等の本質を外さない、共感的・協働的な学び合いの充実～

※見方・考え方とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」

Ⅰ　見方・考え方を明確にした授業構想
Ⅱ　共感的・協働的に学び合う授業の充実　樹林タイムD（考えを出し合う）樹林タイムF（考えを深める、広げる）
Ⅲ　学びの質を高めるためのICT活用の推進と個に応じた指導の充実（ＴＴ・少人数指導）
Ⅳ　ＰＤＣＡサイクルを生かした校内研究の充実

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

Ⅰ　ＪＡＫＳを基盤とした人間的基礎力の育成
Ⅱ　主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成
Ⅲ　全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
Ⅳ　いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

Ⅰ　郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動
Ⅱ　地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動
Ⅲ　望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
Ⅳ　社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動
Ⅴ　田代地域学校協働支援チームでの連携・協働

【大鮎の里ふるさとまつり　田っ中ソーラン 】

【学校祭　全校合唱 「いつまでも」】

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅰ 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。 互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	体育祭での田っ中ソーランなど、行事を通じてお互いに認め合い、所属感や連帯感を高めつつ全校が一丸となって取り組んでいる。昨年度は地域での挨拶が課題だったが、今年度は礼節も含め改善されている。マスク生活の影響が残る生徒もいるだろうが、今後もより元気な挨拶ができるように期待している。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	課題として挙がっている挨拶について、学校でも新たな取組（新しい授業の挨拶）を導入するなど、改善に向けて努力している。その取組を継続することで、更なる向上を目指してほしい。人の顔を見て話を聞く姿勢が育ってきている。先生方の指導のおかげだと感じている。地域でも元気に挨拶できる生徒の育成に向けて、取り組んでほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

「時や場に応じた挨拶、言葉遣い」について、90%以上の生徒が肯定的な回答（4と3の合計）をしている。挨拶や言葉遣いができている基準を生徒と再確認し、更に質を高めていきたい。7月頃、聴く姿勢が以前よりも低下している状況であり、それが生徒の意識としてアンケート結果にも表れている。風紀委員会や学習委員会の活動を生かしながら授業等を通して傾聴して反応する力を更に高めていきたい。「友達や先生が自分を認めてくれる」という思いを高めるために、生徒同士が互いの頑張りを称える場や教師が称揚する場を更に増やすとともに、継続した指導や支援を行っていきたい。

生徒会活動や学校行事への取組の過程で、上級生が積極的にリーダーシップをとりながら、縦割りの機能を生かしてより充実した活動にすることができた。アンケートからも体育祭などへの取組を通して自己有用感や自尊感情の醸成につながったので、今後も継続していきたい。また、生徒会活動では、学校祭への取組を起点に、更に自主的な活動となるように生徒会テーマ「Happiness Charge～112人の幸せのカタチ～」を強く意識させながら、生徒の自治的な意識を高めていきたい。

【年度（→次年度）】【成果】

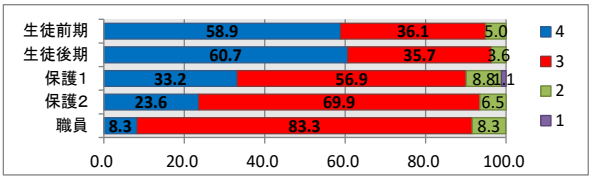
「時や場に応じた挨拶、言葉遣い」と「話を聞く姿勢」は、前期よりも4の段階が微増しており全体の傾向は良好だが、個々の挨拶の質を見ると物足りなさを感じる。自分の立ち居振る舞いを客観的に捉え、向上させようとする生徒を育てていきたい。アセスやいじめ調査の結果を職員間で情報共有し、生徒へ指導したり保護者に連絡したりする流れが以前よりもスムーズになった。今後も、生徒の困り感を解決させられるようサポートし、協働的に目標の実現に向かうことのできる生徒集団を育てていきたい。

9月に行った学校祭では、生徒会テーマを強く意識した運営を進めることができ、特にリーダー的な立場にある3年生を中心に大きな成就感や達成感を味わうことができた。アンケート結果もおおむね肯定的な自己評価であることが見て取れる。より自主的な運営となるように、部門の再編や生徒の主体性を生かせるような役割分担を検討していきたい。生徒会組織も3年生から2年生の新体制へ引き継がれ、来年度に向けてよいスタートが切れるように、今年度中に見通しをもたせながら、準備を進めていきたい。

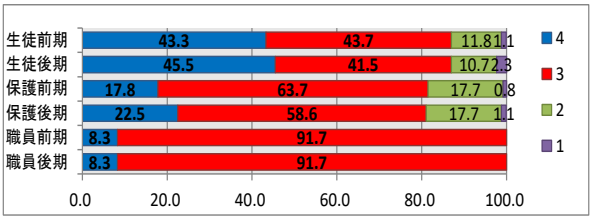
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
1 JAKS：基本的な生活習慣の確立 TPO：人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1)基本的な生活習慣の確立（時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓）	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→（凡事徹底）	3		3	
	(2)生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→（共生） ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	3	3	4	4
	(3)目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→（挑戦） ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	4		4	
2 共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4)互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け（ポートフォリオ、樹林ノート、キャリアパスポート、キャリアノート）	3		3	
	(5)主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動（執行部、専門委員会）	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	3	3	3	3
	(6)共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭（田っ中ソーラン、応援合戦）、学校祭（合唱コンクール、学年発表）、地区ボランティア（夏・冬）	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動（体育祭、地区ボランティア等）	4		4	

（主なデータ） 生→生徒 保→保護者 職→職員 生徒県平均→R5全国学力・学習状況調査 4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない

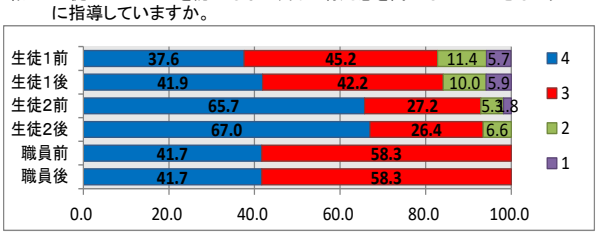
生 時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。
保1 お子さんは、学校や地域、部活動で好ましい挨拶ができていると思われますか。
保2 お子さんは、場や相手に応じた言葉遣いができていると思われますか。
職 生徒は時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。



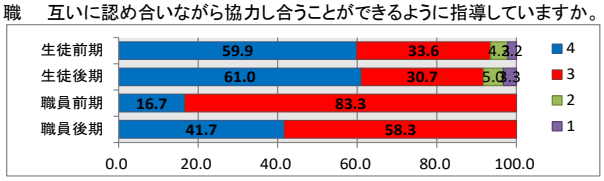
生 友達の発表や先生の話は話し手を見て反応しながら聞いていますか。
保 お子さんは、学校で教師や友達の話をしっかりと聞いていると思われますか。
職 生徒は、話し手を見て反応しながら共感的に聴いていますか。



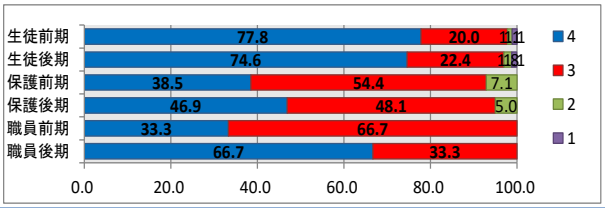
生1 自分にはよいところがあると思いますか。
生2 友達や先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
職 生徒のよいところを認めるなど、自己有用感を高めることができるように指導していますか。



生 友達と互いに認め合い、協力し合いながら向上することができていますか。
職 互いに認め合いながら協力し合うことができるように指導していますか。



生 学校行事では集団の一員として積極的に参加し、達成感を味わうことができましたか。
保 学校は、学校行事や諸活動で生徒に活躍の場を与えていると思われますか。
職 行事等に向けて集団の一員として積極的に活動し達成感をもつことができるよう指導していますか。



■データから見える成果と課題

1 「時や場に応じた挨拶、言葉遣い」と「話を聞く姿勢」は、前期よりも4の段階が微増している。コミュニケーションの基本である挨拶については、概ね良好な状況であるが、自ら進んで挨拶できる生徒を更に育てたい。

2 「自分にはよいところがある」と「相手に自分のよいところを認められている」は、肯定的回答の割合が微増している。特にどちらも4の段階が増えている。様々な活動を通して達成感を味わったり、友達や教師から認められたりする経験を積み重ねることが、生徒の自己有用感や自尊感情の醸成に結び付いてきていると考える。今後は、「自分にはよいところがある」について、2及び1と回答している生徒への支援をより一層充実させていきたい。

3 「互いに認め合い協力する」ことについては、4の段階の生徒が61%で、肯定的回答も90%を超えており良好な状況である。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅱ 思いやりの心・たくましい心

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	学校が楽しいと感じている生徒が多いことは何よりである。ふるさとキャリア教育がしっかり根付いてきていると感じるが、生徒と保護者の意識には乖離がみられる。保護者がふるさとキャリア教育を受けた世代でないことが影響しているか。教職員の評価が厳しいが、自らの仕事に厳しい表れだととらえている。
	年度	良好	良好	田代中のよさとして、「まわりの人のことを考えて行動できる」「居心地がよい」という声が生徒とのヒアリングで聞かれた。やさしい心をもち、協調性が高い生徒が多いのが田代中のよさである。この一年で楽しかったこととして、学校祭が挙げられている。自分たちで創り上げ、達成する喜びを共有できているようだ。子どもたちの記憶に深く残る行事となった。

自己評価の概要と学校の改善策

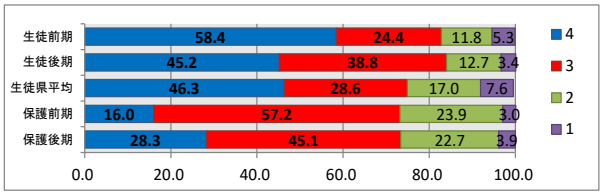
【前期(→年度)】
道徳教育全体計画別葉について、昨年度のものをベースに、より生徒の実態に即したものに内容を改善し、活用している。定期的に内容の確認を行いながら、全職員で意図的・計画的な道徳教育の充実を図っている。道徳科の指導においても、道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合っていけるような授業づくりに取り組んでいる。
ふるさととの関わりについては、肯定的に捉えている生徒が多いが、昨年に比べて4の回答の割合が減少しているので、改めて地区ボランティアやふるさとキャリア教育の目的や意義を問いかけながら、より実践的な活動になるようにしていきたい。そのために、今後の活動について生徒の主体性を生かせるように、計画の立案や目標設定、振り返りのサイクルを積み重ねていきたい。また、田代中学校ならではの「異学年交流のよさ」も生かしながら、上級生のリーダーシップを醸成していきたい。

【年度(→次年度)】
2学期の様々な行事や日常の生活を通して、生徒の自己有用感や自尊感情を高められるような指導・支援を学年を越えて全職員で取り組んできた。特に道徳教育の重点内容項目については、全体計画別葉を活用し、確認と振り返りをして、反省を次年度へとつなげている。道徳科の授業においては、教師の得意分野を生かした授業を実施するなど、創意工夫をしている。しかし、年度当初計画した道徳集会は日程上設定できなかったので、来年度に向けて実施可能な「考え、議論する」場の設定を検討していきたい。
ふるさとキャリア教育を通した地域との関わりについて肯定的な生徒が多い。田っ中ソーランや地区ボランティアなどの活動を通して、地域貢献できたという成就感に起因していると考えられる。田っ中ソーランは、ようやくコロナ禍前のように地域から求められて出演する場面が増えてきている。田っ中生の誇りであるとともに、地域の方々にも元気や活力を与えていることを実感させながら、より有意義な活動となるようにしていきたい。地区ボランティアについては、生徒数の減少とともに、活動が困難な地区も増えてきている。本来の目的に立ち返りながら、生徒が主体的に関わっていけるような望ましいボランティアの在り方を模索していきたい。

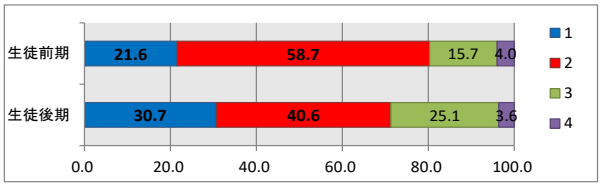
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践(道徳教育全体計画別葉の活用) ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会(全校生徒で「考え、議論する」場)の設定	3	3	3	4
	(8)ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通した郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け(ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート)	3		4	

(主なデータ)

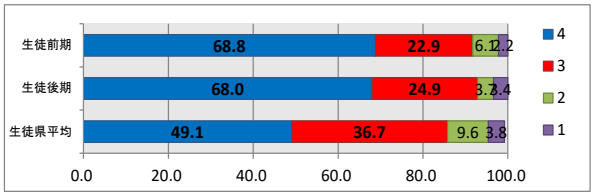
生　夢や目標をもって生活をしていますか。
保　お子さんは、学校での学習や生活において目標をもって取り組んでいると思われますか。



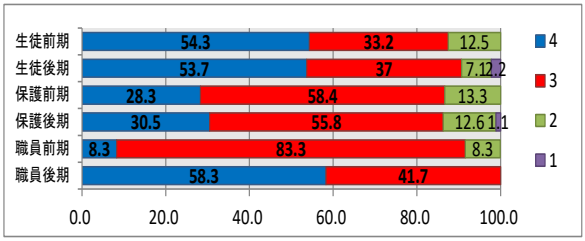
生　難しいことでも失敗や間違いを恐れないで挑戦していていますか。



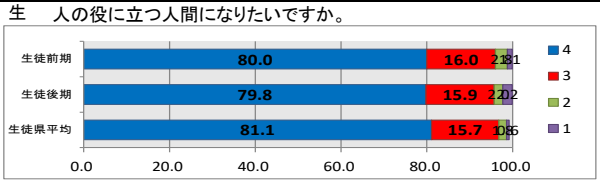
生　学校が楽しいですか。



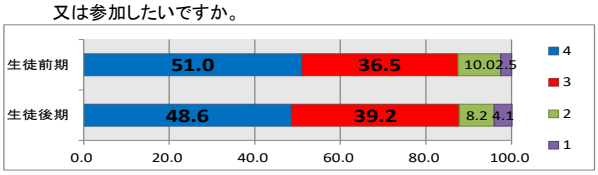
生　ふるさとキャリア教育を通して、地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていますか。
保　お子さんは、ふるさとキャリア教育を通して地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていると思われますか。
職　ふるさとキャリア教育の理念を生かした教育活動を推進していますか。



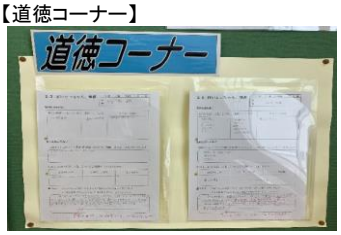
生　人の役に立つ人間になりたいですか。



生　地域活性化のために地域行事やボランティア活動に積極的に参加していますか。又は参加したいですか。



【道徳コーナー】



【保育園実習】

【未来を語る会】 テーマに基づいた意見交流と本校OB　佐藤　一史氏による講話

■データから見える成果と課題

1 「夢や目標をもっている」と「学校が楽しい」は、肯定的回答の割合が微増した。また、県平均を上回っている。また、「難しいことへの挑戦」については、4の割合が増えたものの、肯定的回答の割合が減少した。2及び1と回答している生徒が成功体験を積み重ねながら挑戦する気持ちを高めることができるような支援が必要である。引き続き、「共生、凡事徹底、挑戦」を意識した学校生活を送り、よりよく生きるために必要な資質・能力を育むための道徳教育やふるさとキャリア教育の充実を図っていきたい。

2 「ふるさとキャリア教育」や「地域貢献」について、肯定的に捉えている生徒が多い。地区ボランティアや田っ中ソーラン演舞など、地域の方々と直接ふれあう中で感謝の気持ちを伝えることや、全校生徒による「未来を語る会」での講話や意見交流が、地域に対する思いやこれからの自分の生き方についての考えを深めることに結び付いた。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的・協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	授業を見合う会（樹林ツアー）や授業での学び合い（樹林タイム）など、意欲的な取り組みが見られる。学習が苦手な生徒も前向きに取り組んでいる様子をヒアリングから知ることができた。学習委員会の日常活動が、生徒自らがとらえた課題をもとに学習目標を設定していることも素晴らしい取り組みである。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	生徒とのヒアリングの中で、「樹林タイム」が活発に行われているという声があった。先生方の指導が生徒たちにつながっている。授業改善に向けて、先生方の取組も行われている。生徒一人一人の基礎学力の更なる向上を目指した取組に期待したい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

年度初めの授業での学び方に関わる学習オリエンテーションのほか、学習委員会による日常の活動（自分の学級の実態を捉え、そこから浮かび上がった課題をもとに必要感のある学習目標を設定）を通して、基本的学習習慣の改善とレベルアップを図っている。学習の見通しをもつことや、学び合いの充実、学習の振り返りについて、4の解答の割合が昨年度よりも減少している。この3点について、生徒主体の学習集会を通して強く呼びかけ、改善を図る。「研究主題に基づく授業改善」についての肯定的回答が昨年度と変わらないが、4の回答の割合が減少している。教員が足並みを揃えて授業での共通実践を大切にしながら、授業を見合う会「樹林ツアー」や校内研修会、授業研究会等を通して、課題意識を高める導入や効果的な学び合い（樹林タイムD・F）、発問や指示、個に応じた指導、振り返りの充実等の工夫改善に努め、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りたい。また、授業のねらいを達成させるためのICTの活用がなされているので、今後も引き続き活用して個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努める。

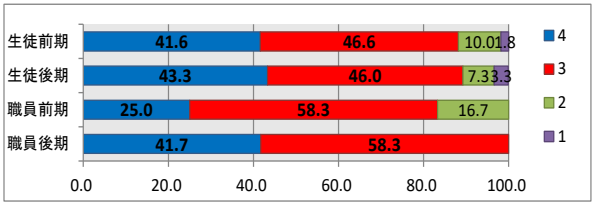
【年度（→次年度）】

2学期始めに行った生徒主体の学習オリエンテーションや学習委員会による日常的な学習目標と授業評価の呼びかけから、生徒の授業に対する意欲はわずかながらも増加傾向にある。しかしながら、学び合いや振り返りについては、減少傾向にあることから、学び方が生徒全員に浸透していないことが考えられるため、各教科で研究主題と共通実践項目を意識し、足並みを揃えて授業を行っていきたい。職員の調査では、「研究主題に基づく授業改善」に関する問いで、全員が肯定的意見をもつことができた。多忙な中でも授業を見合う会「樹林ツアー」を継続して行ったことや、校内研修会、授業研究会を定期的に開催できたこと、研究通信などで情報提供したことが奏功したと考える。ICTの活用も進み、日常的に授業に取り入れる先生方も増えてきたため、今後も引き続き活用して、ねらいの達成、資質・能力の育成につなげる。

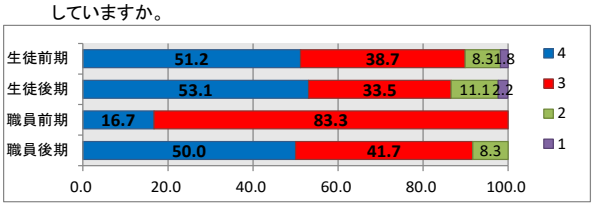
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	・「田代中学習の約束」を基盤とした基礎・基本の定着 ・学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会（樹林ツアー）、研究授業等による授業改善 ・学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	3	3	3
5 授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的・協働的に課題を追究する授業実践	・各教科で働かせる「見方・考え方」や育む資質・能力を明確にした単元（題材）構想と授業デザインの工夫 ・学び合いの時間「樹林タイムD・F」の実施と教師のコーディネート ・自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3		3	
6 諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	・各種テストの分析と適切な回復指導 ・形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3		3	
7 教職員の研修	(12)研修及び授業研究会を通した指導力の向上	・校内研修会（ICT、夏季、冬季）の充実 ・教科を越えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ・毎月1回「授業を見合う時間」（樹林ツアー）の設定	3		4	

（主なデータ）

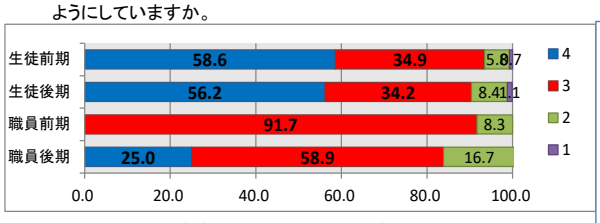
生 授業では意欲的に学習に取り組んでいますか。
職 必要感のある学習課題・めあてを提示し、ゴールや解決の方法に対する見通しをもたせていますか。



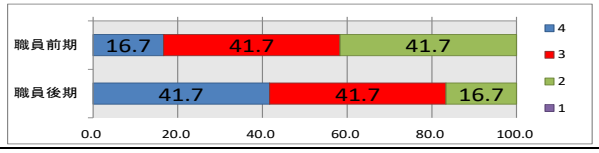
生 授業や集会などでは、ペアやグループなどでの学び合い（樹林タイムD／F）を通して考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
職 ペアやグループ、全体等の学び合いの場（樹林タイムD/F）を設定し、考えを深めたり、広げたりすることができるように視点（目的、資料等）を示したり、発問を工夫したりするなどしてコーディネートしていますか。



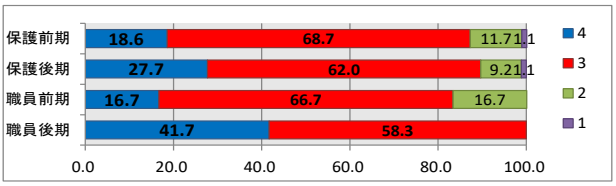
生 授業では、学習課題・めあてに沿ってまとめをし、振り返りをすることができていますか。
職 学習課題・めあてを踏まえ、視点（つながり）に沿った振り返りを行い、次の学習への意欲や見通し、学びの意義や価値を実感できるようにしていますか。



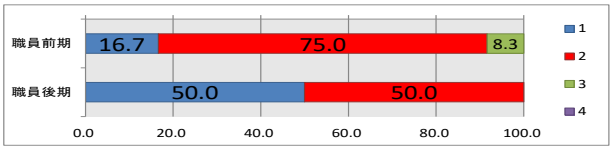
職 授業のねらいを達成させるためにICTを積極的に活用していますか。



保 学校は、少人数学習、ティームティーチング、個別指導など、生徒の学力向上のための工夫をしていると思われますか。
職 個に応じた指導、学習相談日、単元の評価問題等の補充的指導を充実させ、学習状況を改善していますか。



職 研究主題に基づく授業改善に取り組んでいますか。



【学び合い（樹林タイム）】

【放課後学習会における個別指導】

■データから見える成果と課題

1 前期と同様に、授業での学び方に関わる学習オリエンテーションや学習委員会による日常の活動が、生徒の基本的学習習慣の確立に結び付いている。

2 「学習への意欲的な取組」と「学び合いの充実」は、前期よりも4の段階が微増しており、概ね良好な状況であるが、「学び合いの充実」や「まとめ、振り返り」での肯定的回答の割合が減少している。職員の回答では、後期は4の割合が増加した一方で、2の回答も増加していることから指導の成果と課題を共有し、更なる指導の工夫改善に努めたい。

3 「学習状況の改善」に関わる職員の肯定的回答の割合が増加した。引き続き、授業やテスト前の個別指導等を通して個に応じた学習の充実を図っていきたい。

4 「研究主題に基づく授業改善」に関わる職員の肯定的回答の割合が増加した。授業を見合う樹林ツアーや研究実践に関わる校内研修会、授業研究会等を通して職員の授業改善に対する意識が高まり、実践に結び付いている。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅳ 健康と体力

生徒の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	望ましい生活習慣の確立をするため、生徒たちはある程度メディアコントロールができているようだ。SNSの利用についても大きな問題はないようだが、今後もモラル教室等を通じて啓発していく必要がある。部活動の地域移行に関して、どのように進んでいくのか見通しをもって取り組んでいく必要がある。勝利至上主義ではない、学校部活動としてのよさも大事にしてほしい。今後は学校側と外部指導者との連携も大切になってくるだろう。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	悩み事や困ったことがあった際に、子どもたちが相談しやすい環境づくりをこれからもお願いしたい。生徒数が減少する中で、今後の部活動の在り方が問われている。来年度から部活動加入が希望制となるが、学校部活動ならではのメリットを保護者にも理解してもらえるよう、周知をお願いしたい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

相談できる環境を整えるために、定期的な教育相談に加え、日頃から生徒一人一人に目を配り、受容的な関わりを心掛けることが大切である。また、生徒同士が互いに悩みを相談し合えるよう、日々の活動を通して共感的な人間関係づくりや心の居場所づくりなどを充実させていきたい。

部活動について、生徒と保護者の回答に2や1の段階が一定数ある。また、教員の2の段階が25%もある。部活動が地域へ移行されていく過渡期だからこそ、部活動運営について、学校として再確認していきたい。

生活習慣の確立や質の向上のためには、諸調査のタイミングでのタイムリーな指導や、宿泊研修等の校外活動でのリアルタイムな指導が効果的である。指導のタイミングを逃さないよう、職員と保護者が連携して組織的に取り組んでいきたい。

【年度（→次年度）】

教師が生徒の悩みを聞き、その改善をサポートし、保護者に伝えてきたことで、「生徒や保護者の悩みへの誠実な対応」についての肯定的な回答が増加したと考えられる。一方で、生徒同士が互いに悩みを相談し合える関係を築けていないことが課題だと考えられる。諸活動の中で、相談し合える場を教師サイドが意図的に設けたり、共感的な人間関係づくりや心の居場所づくりなどを継続していきたい。

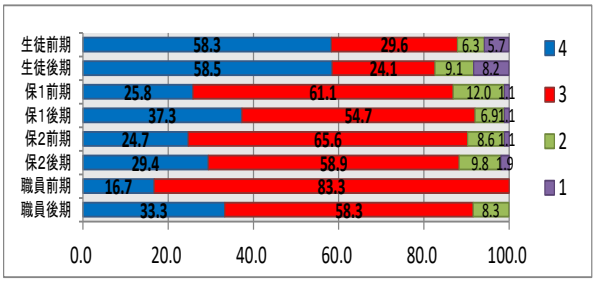
望ましい生活習慣の確立のために、保健体育の授業や保健便りで知識を身に付けるとともに、注意喚起を行ってきた。また、「次代を担う田代の子　自立プラン」を保護者と一緒に振り返る取組を実施している。今後もより効果的な方法を模索し、生徒が自立した生活を送ることができるようサポートしていきたい。

部活動に目標をもって取り組んでいる生徒が多い。来年度から部活動全員加入制が廃止されるが、生徒の目標を教員と保護者が支えていく方向性に変わりはない。引き続き、部活動の適切且つ効果的な運営を学校として構築していきたい。

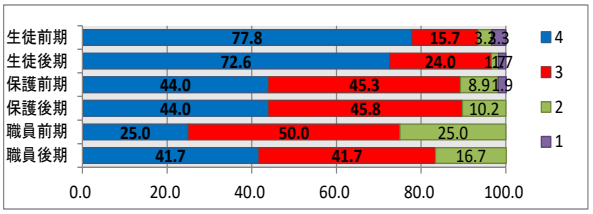
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
8 保健活動の状況	(13)心と体の健康に向けての取組	・教育相談の実施と職員間の情報共有・チーム対応 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導の取組（メディアコントロールアンケート等の活用） ・健康意識の向上を期した掲示環境の整備	3	3	3	3
9 部活動の状況	(14)主体的実践力・共感的協働力を育てる部活動	・目標の実現に向けた主体的、共感的・協働的な活動への指導・支援と見届け ・人間的基礎力（JAKS）育成	3		3	

（主なデータ）

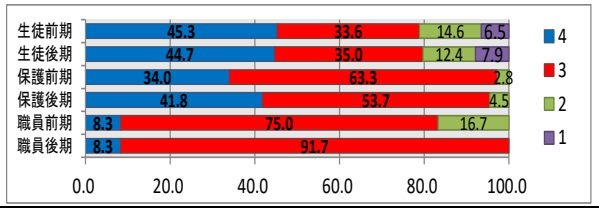
生　悩み事があったり、困ったりしたときに相談できる人はいますか。
保1　学校は、生徒や保護者の悩みや相談に耳を傾け、誠実に対応していると思われますか。
保2　学校は、問題行動に素早く対応し、いじめ等の未然防止に取り組んでいると思われますか。
職　生徒の様子を細かに観察し、問題がある場合は素早く誠実に対応できていますか。



生　部活動へは、自分の目標に向かって意欲的に参加できましたか。
保　お子さんは、部活動に目標をもって意欲的に取り組んでいると思われますか。
職　部活動において、生徒の目標実現を支援していますか。



生　「早寝、早起き、朝ご飯」など望ましい生活習慣が実践できていますか。
保　学校は、保健便りや生徒指導便りを通じて生活習慣改善のための情報を発信していると思われますか。
職　小中連携にかかる共通実践事項（自立プラン、目指す授業の形、学習の約束）はねらいどおり実践されていますか。



【情報モラル学習会】

【薬物乱用防止教室】

【大北秋季総体　バレーボール　優勝】

【田代地区文化祭　吹奏楽部演奏】

■データから見える成果と課題

1 「相談できる相手の有無」についての3の回答が減少し、2及び1の回答が増加した。引き続き、生徒一人一人の状況把握と適切な支援、生徒同士の共感的な人間関係づくりや心の居場所づくりなどを充実させていく必要がある。「生徒や保護者の悩みへの誠実な対応」についての肯定的な回答が増加した。

2 「望ましい生活習慣」については、2及び1と回答した生徒が約20%見られた。保健体育での運動や食事、睡眠の大切さに関わる学習や、特別活動での情報モラル学習等を通して健康や生活改善についての意識啓発を図った。引き続き、保健便りや学年通信等による情報発信のほか、家庭との連携を図りながら生徒の心身の健康状況を把握し、望ましい生活習慣の確立に向けて組織的に取り組んでいきたい。

3 「部活動への意欲的な取組」について、96%の生徒が肯定的な回答をしている。目標をもって意欲的に取り組んでいる生徒が多い。活動を通して技術の習得のほか、課題を追究する力やチームワーク、コミュニケーション能力などを身に付けながら心身ともに成長している生徒が多く見られる。引き続き、一人一人の自己実現につながるよう、保護者の理解や協力を得ながら運営に当たっていきたい。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅴ 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	良好	良好	校長がリーダーシップを発揮し、学校教育目標を教職員がしっかり理解した上で教育活動に取り組んでいる。ふるさとキャリア教育では、田っ中ソーランを軸としてさまざまな地域行事に参加し、生徒が主体的に活動している点も評価できる。ソーランリーダーを育て、踊りにかける想いを後輩たちが継承している。
	年度	良好	良好	校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の具現化に向け、教職員はよく頑張っており、意識の高さを感じる。教職員が一丸となって、これからも教育活動を充実させてほしい。地域行事での田っ中ソーランは、地域に元気を届けている。田代中の誇りとして先輩から後輩に受け継ぎ、これからも盛り上げていってほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

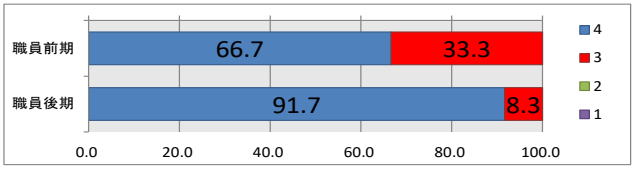
【前期(→年度)】
昨年度同様、「学校教育目標及び重点等の共通理解及び実践」について、肯定的な評価である。これは、今年度、学校教育目標に加えて生徒会テーマも前面に掲げて、教育活動を行ってきたことで、職員と生徒が一体となって学校教育目標の具現化に向けて取り組む意識が高まったことが数値に表れていると感じる。「学校評価や行事等の評価・改善」や「各指導部長や、学年主任、各担当のリーダーシップの発揮、共通実践・評価・改善」 の項目については、肯定的な評価ではあるが4の値が昨年度より低くなっている。これは、実践し、評価した後の改善が十分に図られていない点があることによるものと捉えている。一方、各指導部や担当が前年度踏襲ではなく、目的に応じて、改善を加えて提案している点もあることから、その手段について、より持続可能で無理のない方法を検討していきたい。ふるさとキャリア教育については、生徒や職員も肯定的な評価は高いが、昨年度よりは若干低くなっている。田っ中ソーランや職場体験、地区ボランティアなど、今後、生徒が主体的に活動できる手立てを考えていく必要がある。

【年度(→次年度)】
前期に比べて全ての項目の数値が増加した。特に、ふるさとキャリア教育の項目の数値が50%増加した。今年度、地域行事が開催復活となり、田っ中ソーランを中心とした田代中生の参加が増えた。また、総合的な学習の時間のゴールとして「未来を語る会」を設定したことが、生徒の気持ちの醸成につながったと考える。これが、学校教育目標の実現の肯定的な回答にも表れている。この成果を来年度につなげるために、今年度中にふるさとキャリア教育についての方向性を示すことができるようにしたい。「学校評価や行事等の評価・改善」、「各指導部長や学年主任、各担当のリーダーシップの発揮、共通実践・評価・改善」 の項目についても、前期よりも肯定的な回答が得られた。これは、各指導部長をはじめとした職員全員が、「評価」と「改善」を意識して教育活動に取り組んでいる成果と捉えている。年度末に次年度構想の会議を設定しているが、そこだけにとどまらず、生徒の実態に目を向けながら学校教育目標の実現を目指していくようにしたい。

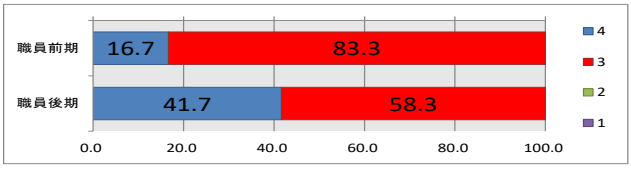
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
10 組織的な学校運営	(15)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4	4	4	4
11 教育課程の編成と実施・改善	(16)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	3		4	

(主なデータ)

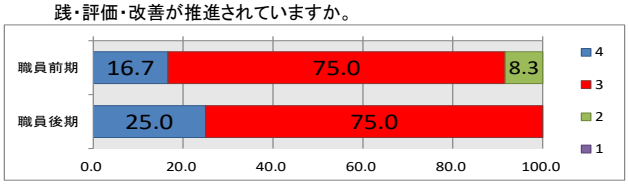
職　学校教育目標及び重点等の共通理解が図られ、共通実践されていますか。



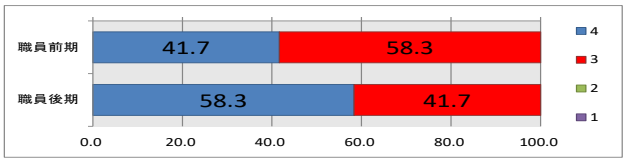
職　学校評価や学校行事等の評価・改善は適切に行われ、かつ目標達成や課題の改善がなされていますか。



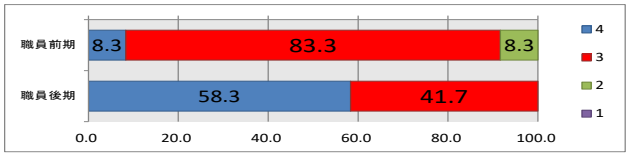
職　各指導部長や学年主任、各担当などがリーダーシップを発揮し、共通実践・評価・改善が推進されていますか。



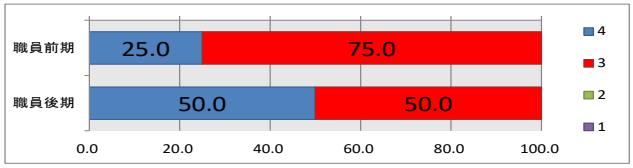
職　月行事予定や週計画(じゅりん)は教育活動の見通しをもてるものになっていますか。



職　ふるさとキャリア教育の理念を生かした教育活動を推進していますか。



職　JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成のために生徒指導の機能を生かした指導に努めていますか。



【生徒の成長の姿が振り返られる廊下掲示】

【総合的な学習の時間コーナー】

■データから見える成果と課題

1 「学校教育目標及び重点等の共通理解及び実践」について、4の回答が増加し、90%を超えた。学校教育目標の実現のために、その時々で取り組む重点事項を明確にし、各指導部、各学年部の連携による組織的な取組がなされている。引き続き、実践及び評価・改善のサイクルを機能させながら、教育活動の更なる充実を図っていきたい。

2 見通しのもてる教育計画について、4の回答が増加した。週計画(じゅりん)では、授業計画のほか、行事予定、出張、書類の提出期限等、3週間分のきめ細かな計画が円滑な学校運営に結び付いている。

3 「ふるさとキャリア教育の理念を生かした教育活動」について、4の回答が増加した。総合的な学習の時間を中心に各教育活動との関連を図りながら取り組んできた。引き続き、活動の目的とそれを達成させるための最適な手段を検討しながら、活動内容の工夫改善を図りたい。

イ 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅵ 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	おおむね良好	良好	学校報やブログを通じた情報発信は十分に行われていると評価できる。地域・保護者が連携して実施している田代岳登山も大事な取組だが、ここ数年中止になっていることを考え、時期の変更をお願いしたい。平滝・五色の滝をめぐる自然学習も、地域のよさを実感するための取組として期待している。
	年度	良好	良好	前期に引き続き、学校報やブログを通じた情報発信は十分に行われていると評価している。今後の課題として、入学式で保護者に周知したり、学校報にQRコードを掲載したりするなど、ブログのことをもっと広く周知する方法を検討するとよい。田代自然学習は、地域のよさを実感できる貴重な体験である。今後も継続してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

今年度も学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信を継続してきた。保護者の95%が肯定的な回答をしているが、昨年度よりも4の回答が減少している。今後も生徒が活躍している様子を捉え、タイムリーに情報発信していくのはもちろん、情報の質を向上させることを念頭に取組を継続していきたい。

地域・保護者との連携についても、保護者の95%が肯定的な回答をしているものの、昨年度より4の回答が減少している。各町内で行われている地区ボランティアでは、たくさんの保護者や地域の皆様に御協力いただき、学校と地域・保護者が連携・協働する活動として定着してきている。今後はその内容を精査し、地域により貢献できる活動に昇華していきたい。恒例の田代岳登山に関しては、天候に恵まれず2年連続の中止となってしまった。開催時期の見直しを図り、来年度につなげていきたい。また、今年度は新たに2年生を対象とした平滝自然観察林・五色の滝自然学習を計画している。五色湖周辺の開発を進めている大館市観光課とも連携し、ふるさとの豊かな自然に触れる機会としたい。

【年度（→次年度）】

前期に引き続き、学校報や学校HP、学校ブログを通じて、学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について情報発信を継続してきた。多くの保護者が肯定的な回答をしており、アンケートの自由記述からは、ブログを楽しみにしているとの声が届いている。生徒たちからも好評を得ており、これからも情報の質の向上を図りながら、タイムリーに情報発信していきたい。後期の学年通信について、学年の担当を輪番制にすることで、担当者それぞれによる紙面の工夫が見られるようになってきている。

地域・保護者との連携については、PTA総務部に位置づけられた学校図書蔵書管理作業や2年生による田代自然学習といった新たに加えられた行事、田っ中ソーランによる地域貢献など、活動が広がっている。保護者の肯定的な回答も増加しているので、各活動内容の見直しを図りながら地域や保護者との連携・協働による教育活動の充実を図っていきたい。

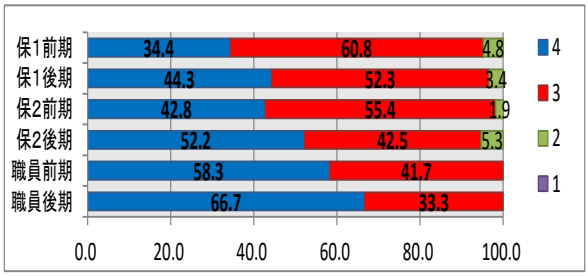
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		後期	
12 情報の受発信と学校開放	(17)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践（保護者・地域）	4	3	4	4
13 地域の教育力の活用	(18)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	3		4	

（主なデータ）

保1 学校は教育方針や教育活動についてPTA総会、学校行事、学校報を通して分かりやすく伝えていると思われますか。

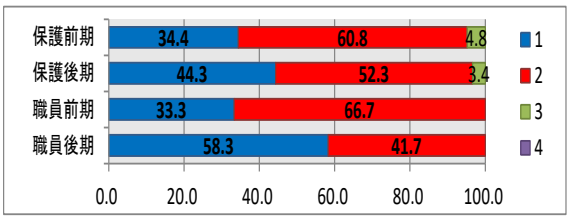
保2 学校は学校報、HPや学年通信等を通して、生徒の様子を積極的に情報発信していると思われますか。

職 学校の取組に理解や協力を得るために積極的に情報発信していますか。



保 学校は、地域、保護者との連携を大切にした取組をしていると思われますか。（PTA、地域での活動等）

職 地域、保護者との連携を大切にした取組を心がけていますか。（PTA、地域での活動等）



【大川美紀さんによる平滝自然観察教育林見学】【小・中合同あいさつ運動 早口小・山瀬小】

【認知症サポーター講座】

【第2回地区ボランティア会議】

■データから見える成果と課題

1 「教育方針や生徒の活動等に関わる情報発信」について、4の回答が増加した。多くの保護者が肯定的な回答をしている。保護者アンケートの記述内容からも学校からの情報発信について、関心が高いと捉えている。学校報や学年通信、ブログ等による情報発信の在り方については、引き続き、様々な視点から内容を吟味し、更に充実させるとともに、緊急性を要する情報等については、時期を逃さずメール配信を行っていきたい。

2 「地域、保護者との連携」について、4の回答の割合が増加した。、PTA事業として行った学校図書整備や朝の登校指導のほか、学校農園活動、キャリア講話、認知症サポーター講座、きりたんぽまつり・五色湖まつり・分館祭での田っ中ソーラン演舞、平滝自然観察教育林学習、地区ボランティア等、新たに加えたものも含めて活動の幅が広がった。引き続き、各活動内容の見直しを図りながら地域や保護者との連携・協働による教育活動の充実を図っていきたい。